

第12回特別展 ^{かめいたかよし} 亀井高孝 — 光太夫をみつけた歴史学者 —

亀井高孝（明治19年（1886）～昭和52年（1977））は、旧名張藤堂家出身の藤堂高矩^{たかのり}の次男として生まれ、4歳のとき、名古屋で商家を営む亀井家の養子となります。その後、一家は上京し、亀井は東京府立第一中学校、第一高等学校を経て、東京帝国大学文科大学西洋史学科に学び、卒業後は、教員生活を送りながら、歴史学者として活躍しました。主著に『参考西洋歴史』（博文館1920）『西洋人名事典』（岩波書店1932）『東ローマ帝国史』（生活社1948）などがあり、『標準世界史地図』『標準世界史年表』などは現在でも改訂を重ね、世界史を学ぶ高校生の副教材として愛用されています。

また、亀井は大黒屋光太夫に深い関心を寄せ、その研究に先鞭をつけた人物でもありました。光太夫を扱った主著には『北槎聞略』^{ほくさぶんりやく}（三秀舎1937）『北槎聞略』（亀井高孝・村井七郎 吉川弘文館1965）『北槎聞略 大黒屋光太夫ロシア漂流記』（岩波文庫1990）や『人物叢書 119 大黒屋光太夫』（吉川弘文館1964）『光太夫の悲恋』（吉川弘文館1967）などがあり、現在でも再版を重ね読み続けられている書籍も少なくありません。なかでも、それまでほとんど世に知られていなかった「北槎聞略」に価値を見出し、校訂・出版し、一般の人びとにも広く紹介したことは、亀井の大きな功績といえるでしょう。現在の私たちが「北槎聞略」を書店や図書館で容易に手にとることができるのは、亀井高孝のこれらの業績によるところが大きいのです。

さらに、亀井は古書の蒐集家としても知られており、光太夫の資料についても多く所蔵していたようです。それらのほとんどは火災で失われてしまいましたが、運よく被災を免れた資料のいくつかが鎌倉の旧亀井家に残され、このたび当市に寄贈されました。今回の特別展では、亀井高孝旧蔵資料を中心に展示し、亀井高孝の業績を紹介したいと思います。



会 期 2018年10月18日（木） ～ 2018年12月24日（月・祝）

開館 10：00 / 閉館 16：00

休館日：月曜日（休日の場合は開館）・火曜・第3水曜 開館日数：46日間

ギャラリートーク 10月21日（日）10：30～

11月22日（木）13：30～